

高松第一学園の小中一貫教育



香川県・四国最初の 施設一体型小中一貫教育校

高松第一学園	学級数	児童生徒数	教職員数
高松第一小学校	18(5)	628名	49名
高松第一中学校	9(2)	335名	36名

施設一体型小中一貫教育校の開校の経緯

平16. 8 高松市小中学校適正配置等審議会 答申

- ・小学校3校の統合
- ・中学校2校の統合

「統合校は、現在の学校敷地の広さ等を総合的に考慮して、光洋中学校の敷地および隣接している松島小学校の敷地を一体的に活用し、小中一貫教育も視野に入れた計画が望ましいと考えます。」

平17. 8 新しい学校づくり協議会 設立

- ・各地域関係諸団体の代表と学校関係者等によって構成(事務局は高松市教育委員会)
- ・平22. 4まで32回の協議会を開催



6・3制のよさ

小学校から中学校へ



ほどよい段差・ギャップ

= 飛躍の土台



大人になるという自覚

気持ちの切り替え

ほどよい段差や節目

4・3・2制のよさ

現在の発達の実情



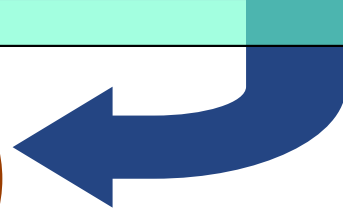
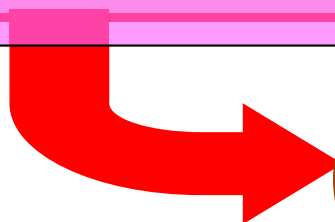
効果的



中一ギャップの解消

滑らかなステップアップ

融合



学校組織・運営上の特徴等について

1 管理職の配置

校長1

副校長1

教頭(小学校2, 中学校1)

2 小中の全教員に兼務発令

3 教育課程上の特例等

平19～平20 教育特区

平21～平22 教育課程特例校

平23～ 学習指導要領の枠内



I 小中一貫教育の基本方針

- (1) 義務教育9年間を見通した学習活動
- (2) 地域に根ざした特色ある教育活動の積極的な展開
- (3) 小学校と中学校のこどもの継続的・効果的な交流
- (4) 教師の特性や専門性を生かした指導
- (5) 一貫した生徒指導, 進路指導, 特別支援教育などの推進

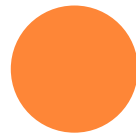


(1)義務教育9年間を見通した学習活動 教科カリキュラムの作成

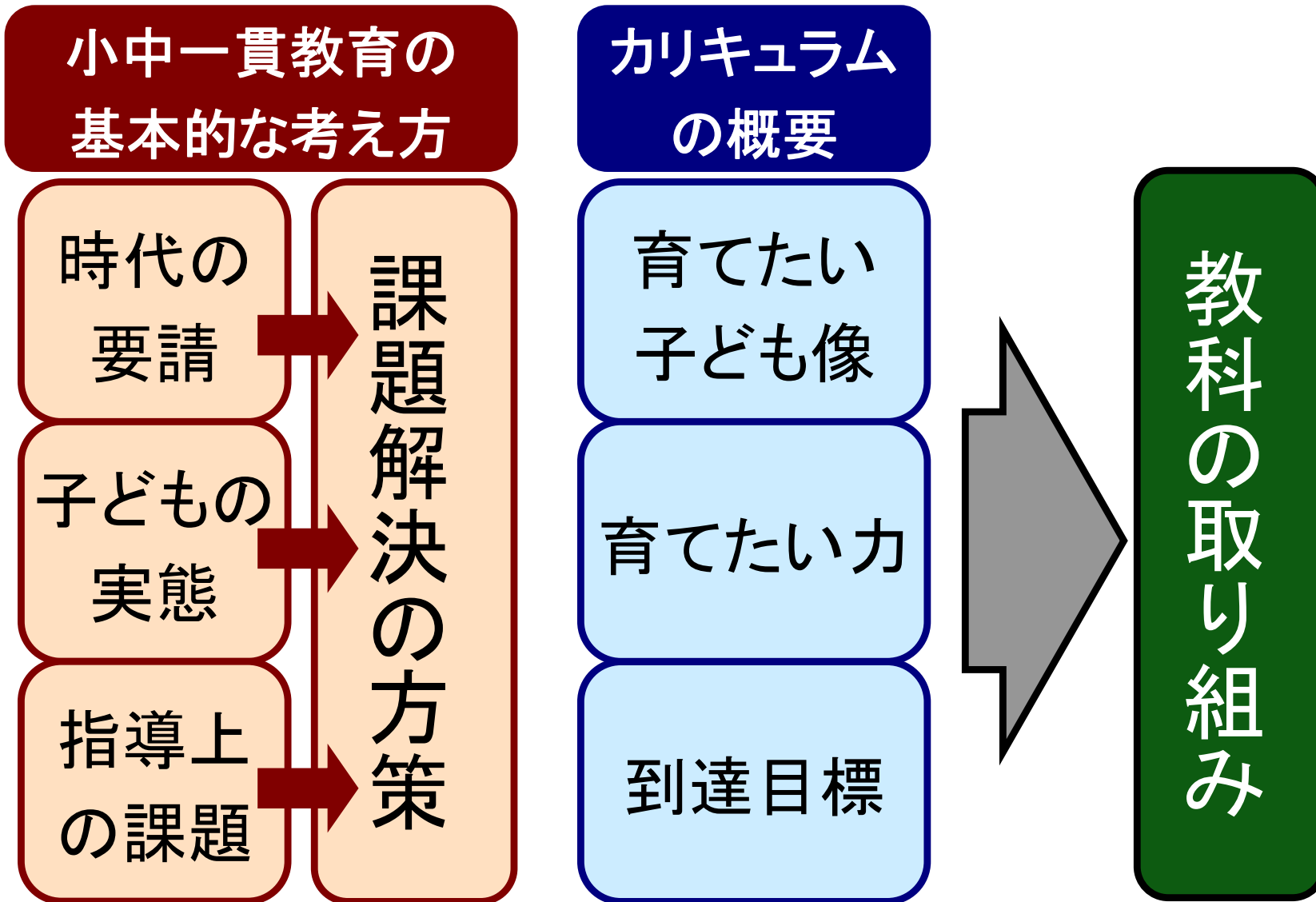
小中一貫教育（国語科）カリキュラムの概要

9年間で育てたい子ども像 言葉を通して感じ、考えを深め、社会と関わることができる子ども

	育てたい力	到達目標		
		言葉を通して感じる (言語感受力)	言葉を通して考えを深める (言語認識力)	社会と関わる (言語活用力)
I 期	正しく伝え合える言語力	A 言葉遊びを楽しむ。 (言語・話す聞く・書く) ・様々な本を楽しむ。 (読書) B 文を楽しむ。 C 語彙を増やすことができる。	A 順序や場面の移り変わりをとらえることができる。(読む・聞く) B 自分の考えを理由づけ、筋道を立てて表現することができる。 (話す聞く・書く) C ・音読、暗唱で表現読みができる。 ・立場を変えて意見を言うことができる。 D 必要な情報を得るために、関連した文や文章を読むことができる。	A クラスの人たちと伝え合うことができる。 B 幅広く読書をする。 C 学習した語彙を生活の中に使うことができる。 D 自分の興味ある情報を収集したり、調べたりできる。 E 場にふさわしい挨拶や受け答えができる。 ● 姿勢、用具を正しく用いて書くことができる。
II 期	自己を表現し、相手を理解する力	A 言葉のリズムや響きを楽しむことができる。 B 文章の表現や特徴を楽しむ。 ・辞書を活用し、言葉の意味を確かめたり、深めたりできる。	A 事実と意見を読み分けたり、対比されている事柄や言葉を見つけたり、まとめと具体例の関係を見つけたりでき、全体の構成を捉えることができる。(読む・話す聞く) B 根拠をもとに筋道立てて表現することができる。	A 大勢の人の前で伝え合うことができる。 B ものの見方や考え方を広げる読書ができる。 C 広げたり深めたりした語彙を生活の中に生かすことができる。



教科カリキュラム・指導計画の作成



(2)地域に根ざした特色ある教育活動の積極的な展開

高松みらい科（総合的な学習の時間）

「環境教育」 「キャリア教育」

【目標】 市民生活に関わる環境や職業生活に対する関心を高め、主体的に課題解決学習や体験活動を行い、自他のよさを見つけ、よさを生かしていこうとする能力や態度を育てるとともに、自然環境や社会環境、職業についての理解を深め、未来社会を築く市民として生きる力を養う。



「高松みらい科」の取り組み Ⅱ期(第6・7学年)

キャリア教育

保育コース

語り・番組づくりコース

木材コース

商店街コース

環境教育

食育コース

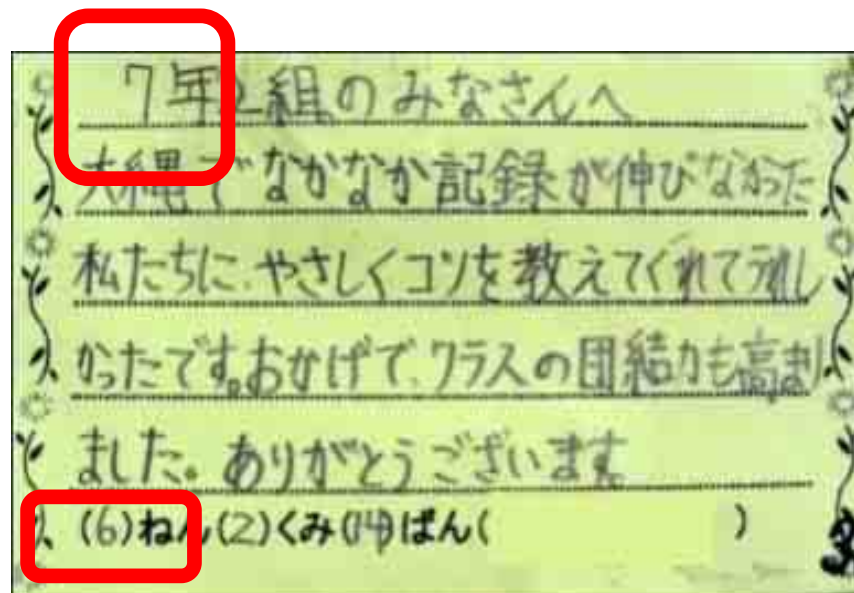
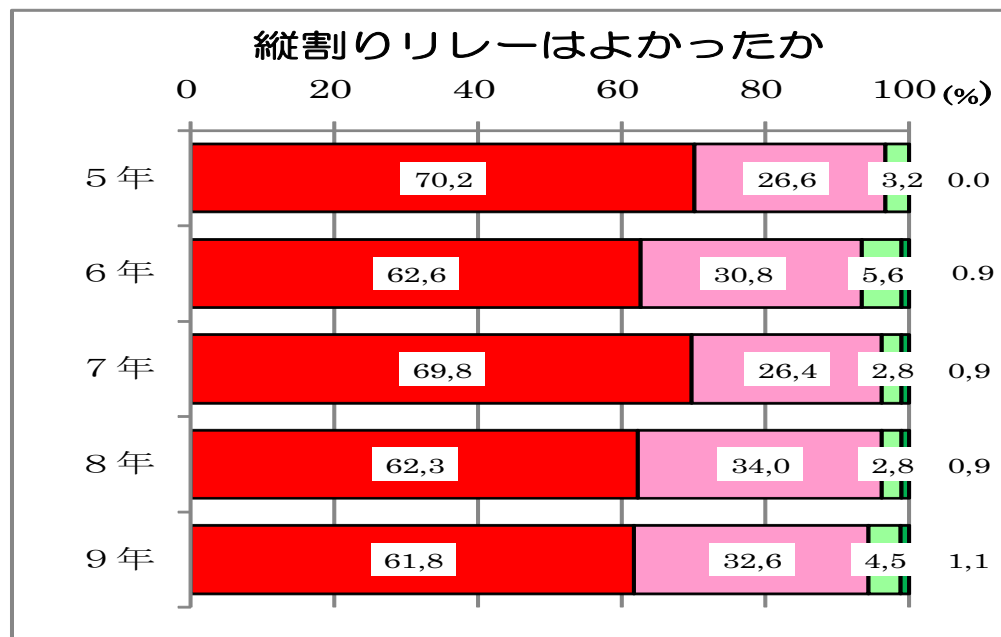
国際文化理解コース

みんなのまちづくりコース

グリーンエココース

(3) 小学校と中学校の継続的・効果的な交流

① 高松第一学園運動会(児童会・生徒会活動の重視)



②小中・異学年交流活動

・きょうだい学年での交流

1・4・9年

2・6・8年

3・5・7年



・清掃活動での交流



・交流給食



②小中・異学年交流活動

・期別朝会



・児童・生徒会活動



・中学校陸上部員による 小学生への指導



(4) 教師の特性や専門性を生かした指導 ＜一部教科担任制・小中全教員に兼務発令＞

① 中学校教員による指導



家庭科
(5・6年生)

音楽(6年生)

図工
(5・6年生)



② 中学校教員と小学校教員による ティーム・ティーチング

〈5・6年生〉理科・英語活動

〈7年生(中1)〉数学



理科

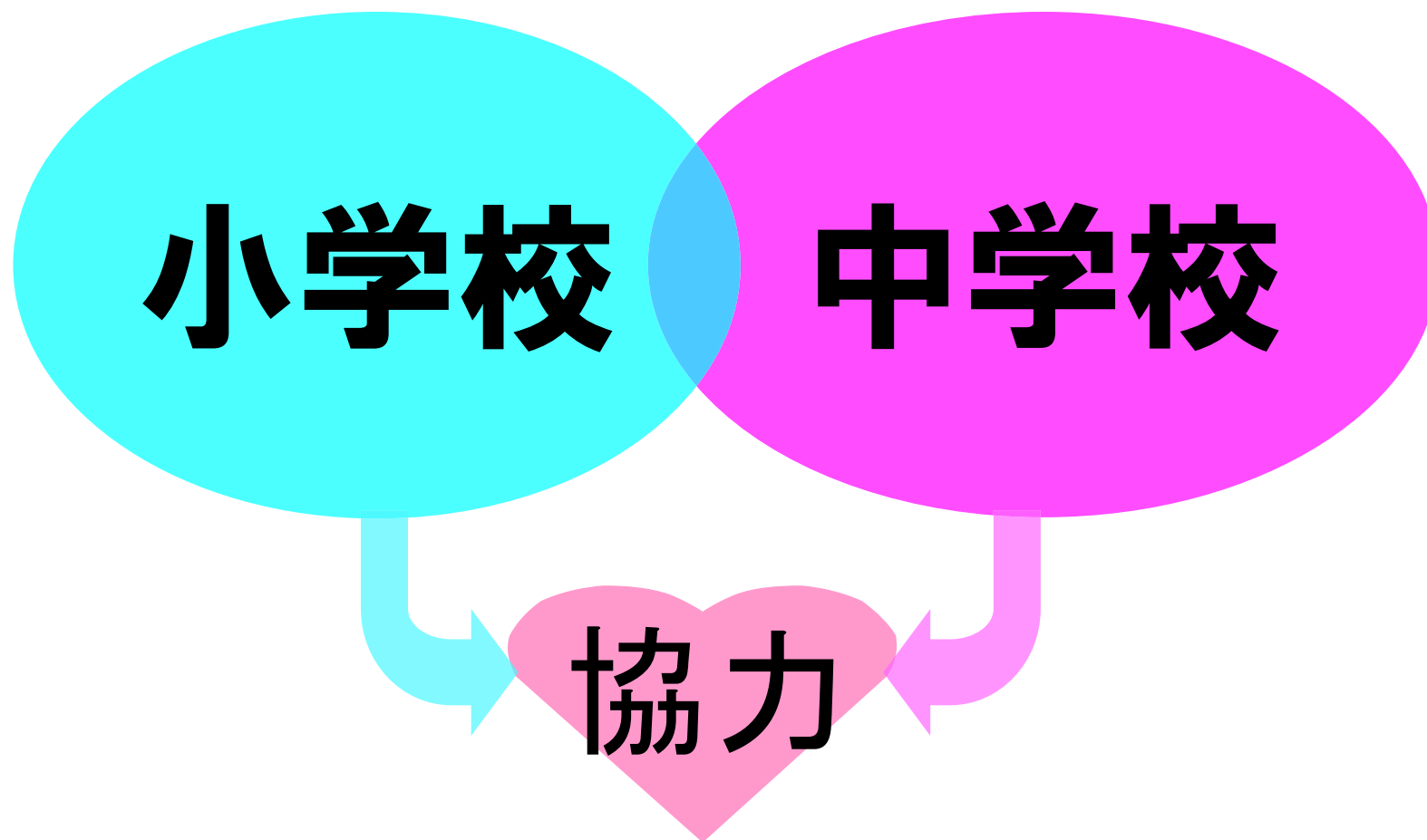


数学



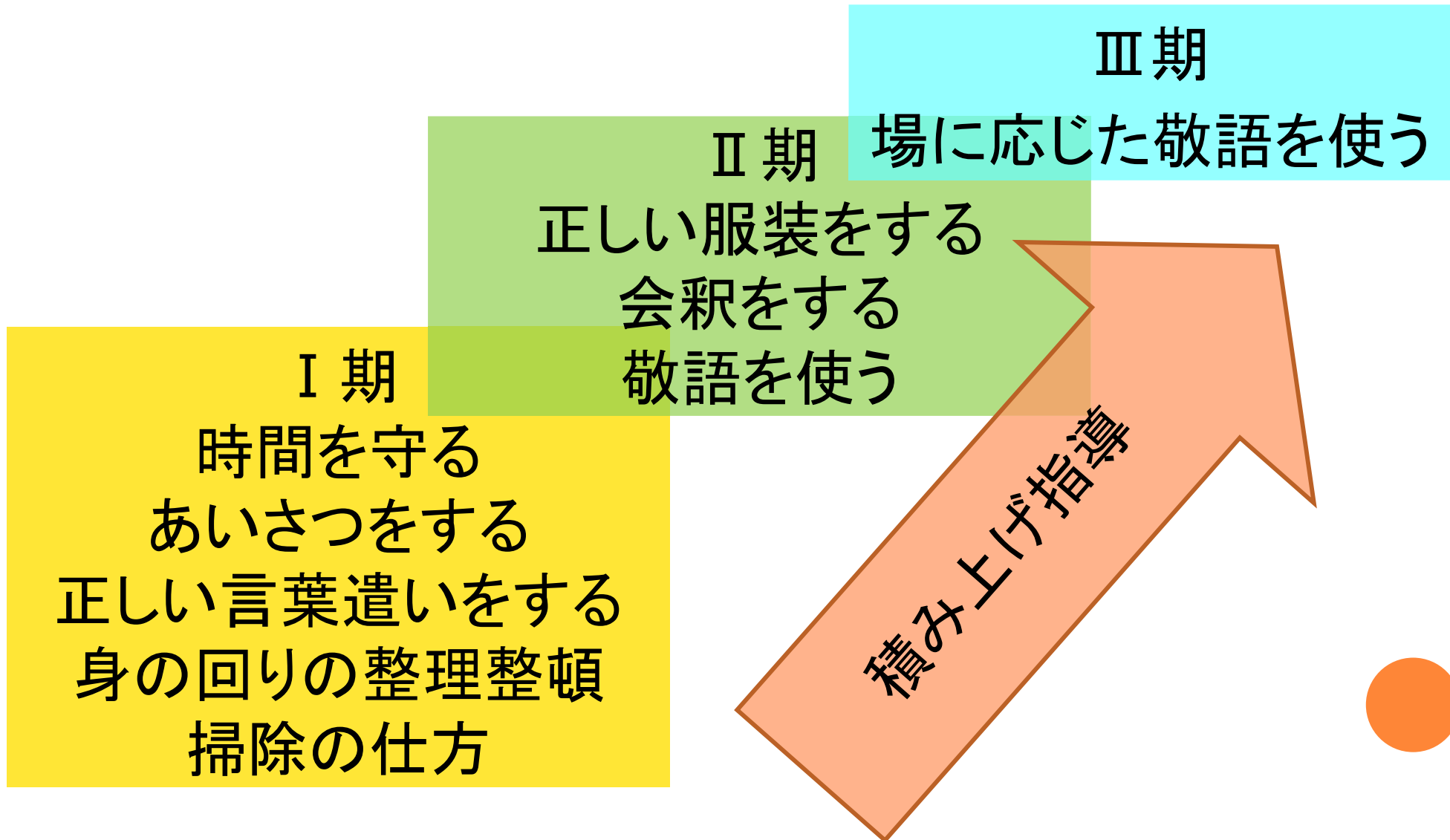
英語活動

(5) 一貫した生徒指導, 進路指導,
特別支援教育などの推進



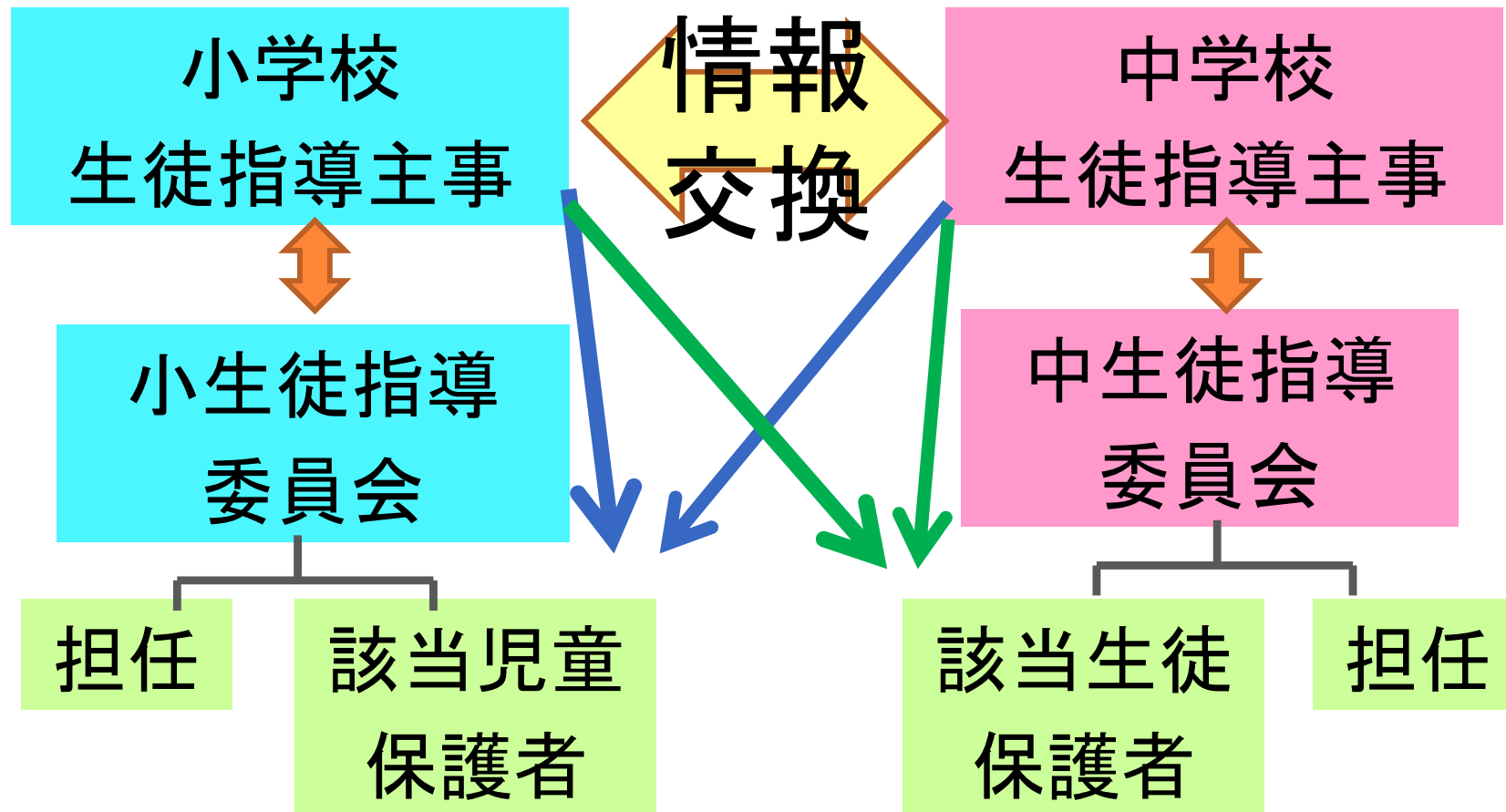
①生徒指導について

発達段階に応じた生徒指導の一貫性および共通理解



小・中学生徒指導上の連携

不登校児童生徒への対応や、
児童生徒間のトラブルへの対応



生徒指導の成果等について

本校の現状

① 不登校

中学校入学後も小学校の状況と変化はない

② いじめ

中学校入学後に、いじめの認知件数はやや増えるものの、その傾向は全国より緩やか

③ 暴力行為

落ち着いた状態で学校生活に取り組んでいる



②特別支援教育

小中一貫教育校のよさを生かした実践

(1) 特別支援学級での取り組み

- 特別支援学級合同授業
- 特別支援学級教員が相互に参観
- 児童・保護者の中学校授業の参観

(2) 通級指導教室での取り組み

- 中学校生徒，保護者への教育相談
- 通級指導教室保護者会

(3) 通常の学級での取り組み

- 小中学校教員の授業交流

(4) 校内支援体制構築における取り組み

- 小中学校教員が連携した就学指導
- 小中合同現職教育
- 小中合同の特別支援教育委員会
- 情報の共有

9年間の連続性と一貫性のある
特別支援教育の推進

